

# キャンプファイヤーの準備と片付けについて

安全にご注意し、楽しく思い出に残るキャンプファイヤーになりますように。

## 準備について

①	丸太割薪 バラ	32本	第1～3 営火場：野外炊飯場薪置き場	3,870円/セット
	炊飯用薪 小薪	2束	野球場・第4 営火場：グラウンド倉庫	
	灯油 (ハットボトル)	1L	売店受取	
②	トーチ棒	団体用意	売店でも取り扱っています	200円/本
③	軍手・新聞紙・マッチ	団体用意	売店にはありません	

(参考) 追加の場合

丸太割薪	120円/本
炊飯用薪	360円/束
灯油	160円/L



○薪の組み方

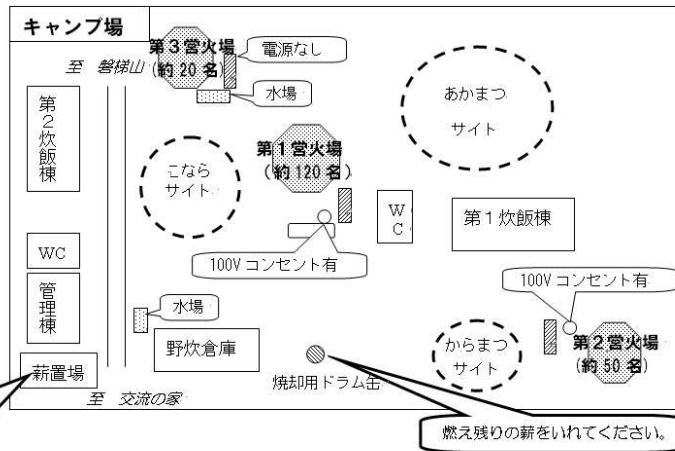
井桁



インディアンスタイル



薪はここからお持ちください。  
 ○丸太割薪 (約100cm)  
 ○炊飯用薪 (約50cm)  
 なお、灯油とトーチは売店からお持ちください。



燃え残りの薪をいれてください。

## 片付けについて

〔営火場のプラスチックコンテナに 片付け用具が入っています。〕



- ①薪は、できる限り燃やしきります。
- ②灰や炭は、ほうきと灰取りスコップを使って掃除をします。
- ③灰・炭・薪・トーチは営火場そばにある「**焼却用ドラム缶**」に捨てます。  
トーチの針金はごみステーションの燃えないゴミに捨てます。
- ④活動後すぐに片付けをお願いします。翌朝に片付ける場合は、消火を十分に確認ください。  
**水をかけないでください。**

# キャンプファイヤー薪の組み方

## (1) 井桁 (初心者向け)

- ① 丸太割薪で数段、井桁に組む。
- ② 新聞紙を丸めて井桁の中におき、4方向にトーチで火をつける「火口」に新聞紙を出す。
- ③ さらに上部に井桁に組む。写真は12段組んだ高さ。  
(ファイヤーキーパーのために、数本残しておいても良い)
- ④ 丸太割薪24本で組むと、営火台(50cm)を含めて約1.15m程度の高さになる。

その日の天候や団体の構成により高さ等は調整が必要。

※炎が上がった場合、火の先端は2.5m程度になる。

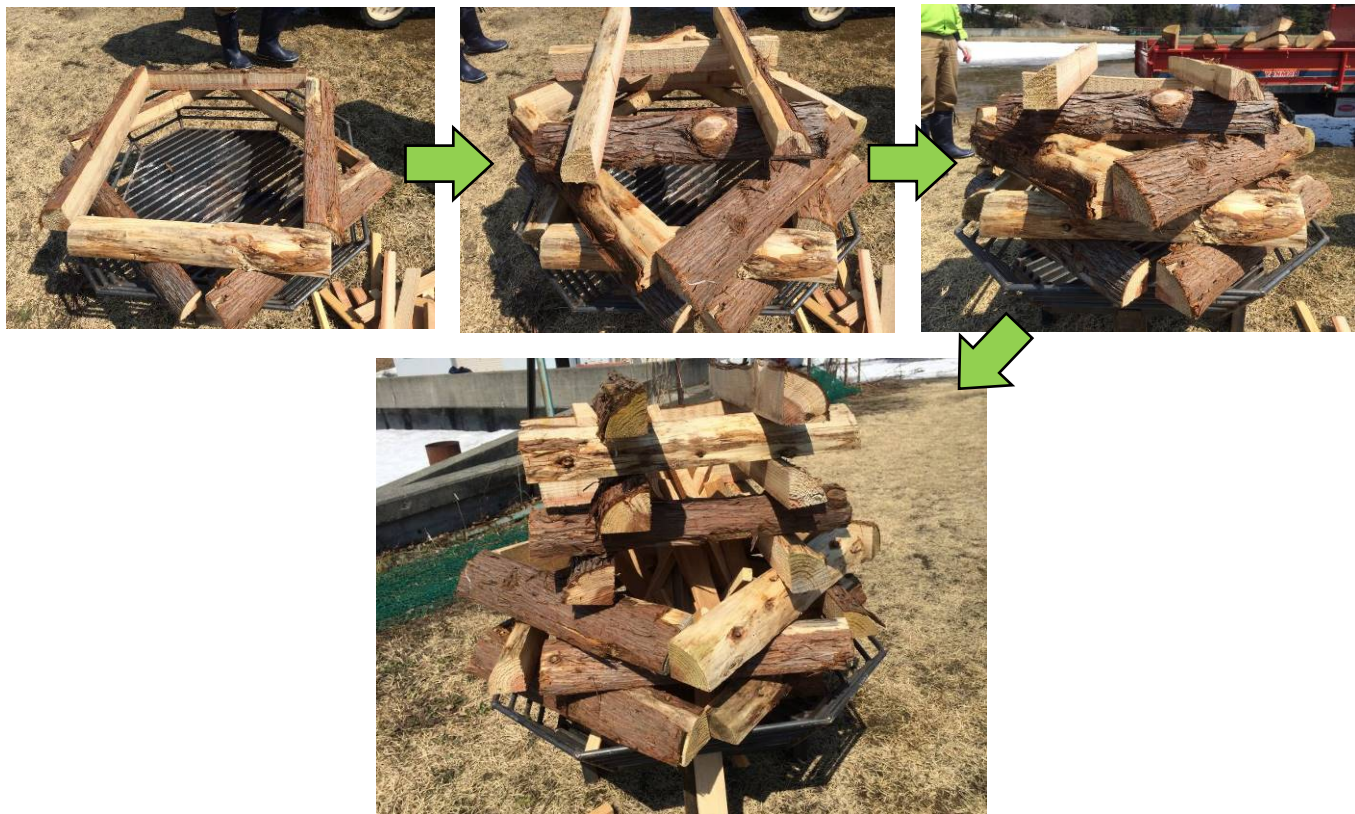
- ⑤ 残りの新聞紙や炊飯用薪(小薪)を井桁の中に入れる。
- ⑥ 点火の10~20分前に灯油を中心部の新聞紙や炊飯用薪(小薪)にかけ、火口になる新聞紙にも少ししみ込ませておく。

(トーチ棒を利用の場合は、トーチ棒にも少ししみ込ませる)。

**※灯油がたれたり、流れたりしないように注意する**



## (2) 下段八角形、上段を井桁で組む場合



## (2) インディアンスタイル (短時間向き)

- ① 丸太割薪で 10 段、井桁に組む。
- ② 新聞紙を丸めて井桁の中におき、4 方向にトーチで火をつける「火口」になる新聞紙を出す。
- ③ 丸太割薪を組み上げたら、残りの新聞紙や炊飯用薪（小薪）を井桁の中に落とし込む。
- ④ 丸太割薪を井桁組した角材薪の周囲に立てかけるようにしておく。
- ⑤ 全ての丸太割薪を立てかけて完成。約 0.5m 程度の高さになり、火が上がった場合、炎の先端は 1.3m 程度なので、風のある日や、火の粉が気になる時には有効である。
- ⑥ 点火の 10~20 分まえに灯油を中心部の新聞紙や炊飯用薪（小薪）にかけ、火口になる新聞紙にも少ししみ込ませる。（トーチ棒を利用の場合は、トーチ棒にも少ししみ込ませる。）

※灯油がたれたり、流れたりしないように注意する



# キャンプファイヤー進行例



## 1. 役割分担

### ① 営火長、火の神（ファイヤーマスター）

通常は引率者の代表。

はじめの言葉（火の神の言葉）、「火の守」（参加者の代表者数名）への分火の儀式を行う。

### ② 火の神子

火の神を誘導し、補助に当たる。通常、引率者のうちの1名。火の神入場の際の先導をする。

### ③ 火の守（ファイヤーリーダー）

通常は参加者の代表者（数名：火口やトーチの数の人数）。火の神の入場、はじめの言葉のあとに、それぞれ様々な意義の火（例：友情の火、健康の火、豊かな心の火、奉仕の火など）を火の神より受けて、火口から点火をする。

### ④ 司会、進行（エールマスター）

引率者、参加者代表、または指導者などがこれに当たる。全体の司会進行と場の雰囲気を作り出す。

### ⑤ ファイヤーキーパー

ファイヤーの管理、やけどの防止、火の粉の飛散防止、火力調整に当たる。引率者のうちの1名がこれに当たる。火の管理をしながら、最後の消火確認片付けまでの責任をもつ。

### ⑥ アトラクションリーダー

ゲームの展開、スタンツの説明など、いわゆる「盛り上げ役」で引率者、参加者、または外部指導者（依頼）などがこれに当たる。

## 2. 進め方

- ① 静かな音楽を流しながら、**司会**が「**火の神子**」「**火の神**」を迎えることを伝える。
- ② 火をつけたトーチを持った「**火の神子**」の誘導で「**火の神**」が入場する。
- ③ 参加者の周りを1周した後、「**火の神**」より「はじめの言葉」をいただく。
- ④ 「**火の神子**」から「**火の神**」に火のついたトーチを渡し、「**火の神**」は「**火の守**」に、それぞれの火を分火する。
- ⑤ 「**火の守**」は「**火の神**」から火を受け取る際、「〇〇の火をいただきました。これから〇〇を大切にしていきたいと思います。」などと感謝の言葉を述べる。
- ⑥ 全部の「**火の守**」に分火が終わったら、「**火の神**」の点火の合図で「**火の守**」がそれぞれの「火口」から点火する。**ファイヤーキーパー**は**火の守**の動作をサポートし、サークルから火がはみ出さないようにし、また、薪やトーチが倒れてやけどをするようなことがないよう、細心の注意を払う。
- ⑦ **司会**の誘導で、**アトラクションリーダー**によるゲームやスタンツを行う。
- ⑧ 終盤は、**ファイヤーキーパー**が燃えさかる火をコントロールし炎を小さくしながら、タイミングを見計らい、「**火の神**」から心に残る話をいただき、終わりとする。（静かな音楽も効果的）
- ⑨ 終了後、**ファイヤーキーパー**は、消火の確認、片付け・清掃を行い、終了とする。

